標準配筋要領図(7)

7節　梁貫通孔その他の配筋

7．2　コンクリートブロック帳壁との取合い

(a)控壁

（1） 控壁の配置は、意匠図による。

（2） 配筋は、図7.4による。

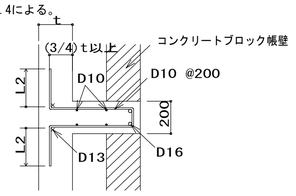


図7.4　控壁の配筋(水平、垂直とも)

(b) 帳壁の配筋は、図7.5による。

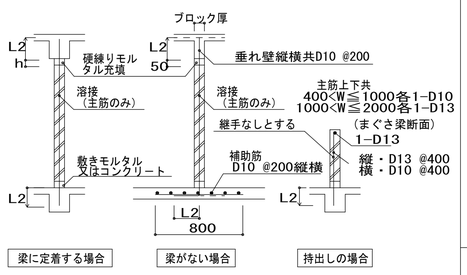


図7.5　帳壁の配筋要領

(注)1.　コンクリートブロック内の配筋は、縦横共D10 @400とする。
（一般の場合）
2.　h=50を越える場合はコンクリートブロック厚の垂れ壁をつける。
3.　主筋の溶接長は、(要)表０．５による。

7．3　機械吊上げ用フック

梁に設ける機械吊上げ用フックは、表7.3及び図7.6による。

表7.3 機械吊上げ用フック

種　別	A　種	B　種	C　種
フック筋	φ25又はD25	φ22又はD22	φ19又はD19
曲げ内法直径(mm)	100		
補強かんざし筋	2-D16		
補強腹筋　(mm)	D16, ℓ =900	D16, ℓ =750	D16, ℓ =600
吊上げ荷重(kN)	70≧W＞50	50≧W＞40	40≧W

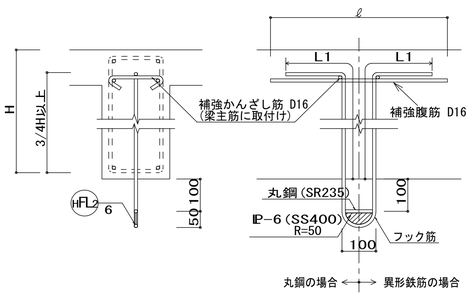
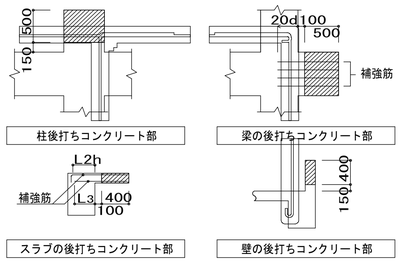


図7.6 機械吊上げ用フック

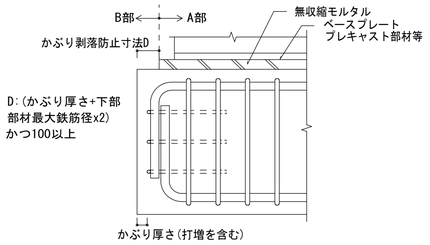
7．4　後打ちコンクリート部の補強要領

・後打ちコンクリート：　打込み後4週以上のコンクリートに接続して打込まれるコンクリート(増筋予定を含む)



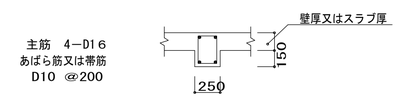
(注)1.　後打ちコンクリート部分の鉄筋は監督職員と協議の上、防錆の養生を行うこと。
2.　補強筋は記入なき限り下記による。
（イ）梁は腹筋をD13 @150とする。
（ロ）スラブの挿入補強鉄筋量は規定鉄筋の50%とする。
3.　増築予定の場合は設計図による。

7．5　RC部材端部に設けられた鉄骨ベースプレート下部のかぶり剥落防止配筋要領



（注）　RC部材上に無収縮モルタルを打設する場合、下部部材の無筋部分(B部)に荷重がかからない様にA部範囲に打設すること。B部範囲の打設は不可とする。

7．6　リブ配筋要領



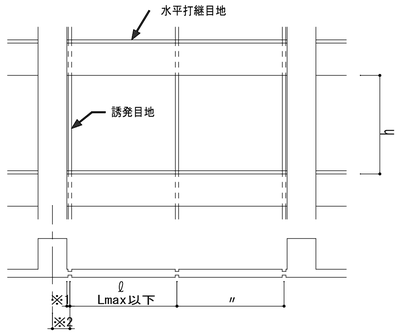
(注)1.　構造伏図又は軸組図に表示されるもので断面表に表示されていないものに適用する。
2.　主筋の定着は小梁の定着にならう。
3.　スラブリブ内にはスラブ筋を定着させてはならない。

8節　ひび割れ対策要領図

注)1. ⊙印の付いたものを適用する。この場合※印があってもそれは適用しない。ただし、⊙印のない場合は※印の付いたものを適用する。

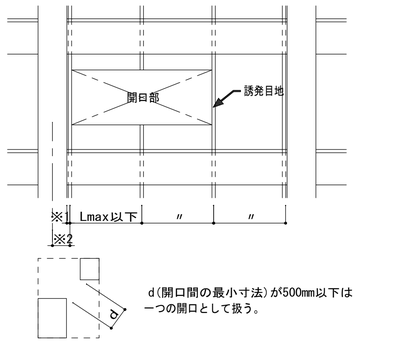
8．1 誘発目地位置

(a) 誘発目地位置の原則
壁の誘発目地の位置は原則以下による。



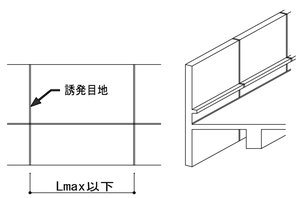
（注）　1.誘発目地の間隔は、Lmax(※3000　・2000　・　　) 以下とする。
2.目地は柱際に設けることを原則とする。柱際から離す場合にも※1が500以下かつ※2が1500以下とする。
3.目地に囲まれる壁内法面積は25m²以下とする。
4.面積が小さい壁を除き辺長比 ℓ /ｈ）は1.25以下とする。
5.梁には目地は設けない。

(b) 開口がある壁
開口がある壁の場合の誘発目地の位置は原則以下による。



（注）　1.誘発目地間隔Lmaxは（ａ）による。
2.誘発目地は、開口部のコーナーを通るように配置する。開口長さがスパンの1/4以上の場合は原則両側に設ける。

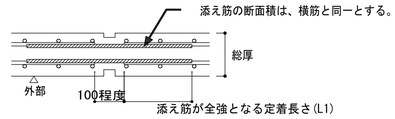
(c) 手すり壁、垂れ壁
手すり壁、垂れ壁の誘発目地の位置は原則以下による。



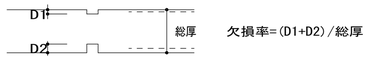
（注）　1.誘発目地間隔Lmaxは（ａ）による。

8．2 耐震壁（EW）誘発目地詳細

(a) 壁厚（総厚）250以下の場合
目地部の詳細は原則以下とする。



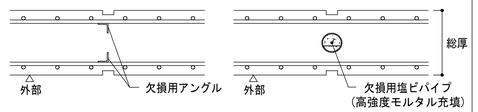
（注）　1.欠損率は（※25%　・　　）とする。



2.外壁の場合の添え筋は（※エポキシ樹脂塗装鉄筋　・普通鉄筋
・目地部塗装普通鉄筋　）とする。
3.内壁の場合の添え筋は（※普通鉄筋　・　　）とする。
4.鉄筋格子については誘発目地に沿って切断（※する　・しない）
5.開口補強筋については誘発目地に沿って切断しない。
6.かぶり厚さは、目地部分でも最小かぶり厚さ以上を確保する。
7.横筋と添え筋の位置を平面的にずらす場合は、横筋を縦筋の内外に変える、縦に捨て筋を流す等により対処する。

(b) 壁厚（総厚）250を超える場合
外壁の目地部には欠損材（※使用する。　・使用しない。）
内壁の目地部には欠損材（・使用する。　※使用しない。）

1.欠損材を使用する場合
目地部に欠損材を使用する詳細は原則以下のどちらか、又は同等の方法とする。

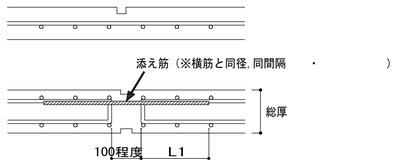


注）上図と同等の他の方法を採用しても良い。

（注）　1.欠損率は欠損材を含み（※25%　・　　）とする。
2.目地部の鉄筋及び欠損用アングルは防錆塗装（・する。　・しない。）

8．3 非耐力壁の誘発目地詳細

目地部の詳細は原則以下とする。



（注）　1.欠損率は（※25%　・　　）とする。
2.外壁の場合の添え筋は（・エポキシ樹脂塗装鉄筋　・普通鉄筋
・目地部塗装普通鉄筋　）とする。
3.内壁の場合の添え筋は（※普通鉄筋　・　　）とする。
4.鉄筋格子については誘発目地に沿って切断する。
5.開口補強筋については、誘発目地に沿って切断（※する。　・しない。）

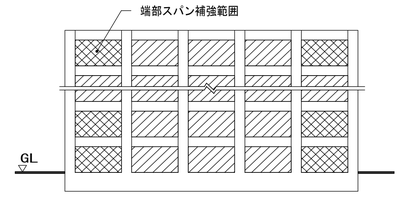
8．4 地下外壁の誘発目地

コンクリート打継部以外の地下外壁には誘発目地は（※設けない。　・設ける。）
地下外壁のコンクリート打継部には誘発目地を設ける。

（注）　1.誘発目地部には（※止水ゴムを打ち込　・　　）

8．5 端部スパン補強筋

外壁に端部スパン補強筋（※設ける。　・設けない。）
内壁に端部スパン補強筋（※設ける。　・設けない。）
補強筋を設ける場合の範囲及び方法は以下とする。



（注）　1.補強筋を設ける範囲は（※地上1,2階及び最上階の両端1スパン
・　　）とする。
2.補強方法は、
（※壁筋の間隔が縦筋・横筋共に@100以下となるように壁筋と同径により補強する。
・壁筋と合わせて壁筋比1.0%以上とする。
・壁筋に加えD　@　　を追加する。）

8．6 外壁大梁の腹筋補強

外壁大梁の外壁側腹筋補強（※行わない。　・行う。）
補強を行う場合の腹筋は（※断面表の腹筋を@200とする。　・　　）
補強を行う場合の腹筋の定着長さはL2、重ね長さはL1とする。

注)1.図表中の寸法の単位はmmとし、単位記号は省略する。
2.図中の(要)は本標準配筋要領図を示す。（例えば(要)0.3「組立」は、標準配筋要領図0.3「組立」の項を示す。）
3.図中の(標)は国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成25年版」を示す。
（例えば、(標) 表5.3.2は、標準仕様書の表5.3.2を示す）

着工	平成　28年　6 25			
竣工	令和　元年　11 30			
監理		監理　日建・上田特定監理業務等共同企業体		
施工		施工　大成・大旺新洋特定建設工事共同企業体		

本標準配筋要領図に使用される記号

B	リストに示す梁幅	L2	一般鉄筋の定着長さ	W	屋根・床スラブの開口（長辺方向）の大きさ	ℓ	梁のスパン，片持ちスラブのスパン
D	リストに示す柱幅	L3	小梁、スラブの下端筋の定着長さ	d	鉄筋の呼び名に用いた数値	ℓo	梁の内法スパン
E, F	柱梁の打増寸法	L1h	フックあり継手及び定着長さ	h	階高	ℓx,ℓy	長方形スラブの短辺有効スパン
H	リストに示す梁せい	L2h, L3h	フックあり定着長さ	ho	柱の内法高さ	t	リストに示すスラブ又は壁厚さ
L1	一般鉄筋の継手及び特殊な場合の定着	P	壁開口（円孔）の大きさ				

完成図　構-20

日建・上田特定設計委託業務
共同企業体

高知市都市建設部公共建築課						
担当	担当	係長	課長補佐	副参事	課長	

高知市新庁舎建設工事

標準配筋要領図（7）

(構) 20
3 － 7

NO. 0－140004－B